

札幌

市民防災

第8号 93

平成25年6月21日
札幌市民防災団体連合会
発行代表者 岡部 隆昭

10月

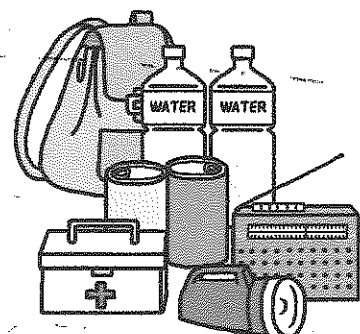
平成24年度札幌市民防災団体連合会総会開催

平成24年6月22日（金）午後2時30分よりSTV北二条ビルにおいて平成24年度札幌市民防災団体連合会定期総会が開催されました。

会員50団体代表者出席のほか、来賓に危機管理課対策室山崎滋部長をはじめ多数の関係者にご参加頂いたなかで、平成23年度の事業・決算報告の後に、平成24年度の事業計画と予算案の審議が行われました（審議の中で議案書の訂正箇所が見つかり、後日正しく議案書の訂正箇所も改正し本会員の皆様に送付いたしました）。

総会の中で、札幌市民防災団体連合会の岡部隆昭から未だに復興が追い付いていない、東日本大震災を踏まえて、改めて防災意識や防災訓練行動の重要性、それに伴い各団体がお互いに情報を共有して活動していく札幌市民防災団体連合会の存在意義や重要性について挨拶いたしました。

総会終了後に防災研修会が行われ、講師に札幌市保健福祉局総務部総務課の只野徹様を講師に迎え、「高齢者・障害者などへの地域での支え合い～日常から緊急時まで～」を、研修テーマに講演をおこないました。



応じて市民に屋内退避などを指示するほか、状況により飲食物の出荷制限や摂取制限も実施します。さらに、泊発電所周辺の9町村から約5万人が避難してくることが想定されており、避難者の受け入れ支援を行います。それぞれの具体的な対策内容は、今後、国や道から示される考え方を踏まえ、随時、検討または修正することになります。

ところで、避難場所の計画にしても、原発事故の防災計画にしても、全体の枠組みや手法、ハード・ソフトの基本的な整備については行政が、専門家や市民の皆さんのご意見を伺いながら準備していきますが、実際の災害時に、自分や家族の身を守り、隣近所と協力して助け合い、避難場所へ行って避難生活をできるだけスムーズにおくるためには、個々人や地域の力が不可欠です。隣近所や町内会など「顔の見える」地域のコミュニティが、積極的に防災活動に取り組んでいただくこと、それは、まさに皆さんが地域で携わっていらっしゃる自主防災活動そのものであり、札幌全体の防災協働社会の構築につながっていく大切な取組です。

大災害が起きた時には、市役所や消防、警察、自衛隊などの防災関係機関のみで、市民一人ひとりを守ることは、残念ながら不可能です。

したがって、札幌市民防災団体連合会、そして、会員の皆様におかれましては、市民の防災意識が高まっているこの時期に、家庭での備蓄や耐震化、町内会での意識啓発等、地域に根差した防災の取組に一層ご尽力いただきたいと考えておりますので、今後ともよろしく願いいたします。

平成24年度の主な活動

- ・平成24年6月22日（金） 札幌市民防災団体連合会総会
- ・平成24年9月22日（土） 宮の森大倉山連合町内会宿泊体験
（宿泊体験の内容は別紙をご覧ください）
- ・平成24年11月13日（火）札幌市民防災団体連合会7周年記念「防災講演会」
例年開催しておりました当会の防災講演会（22年度・23年度は未開催）が平成
24年11月13日に札幌市民防災団体連合会7周年記念として実施されました。
 1. 講演テーマ 「災害・危機に備えて」
講師 札幌危機管理室 危機管理課長 千葉 正志 氏
 2. 講演テーマ 「北海道の地震環境と札幌市の被害想定について」
講師 北海道大学名誉教授・北海道防災会議専門委員・札幌市防災会
議（札幌市地震被害想定委員会 委員長） 鏡味 洋史 氏

（講演の内容は別紙①をご覧ください）

- ・平成25年1月22日（火）平成24年度札幌市市民防災表彰式と札幌市自主防災
セミナーが札幌すみれホテルにて開催される。
 - 各区計11団体が受賞
 - セミナーでは、神戸出身の（公益財団法人）市民防災研究所理事、池上三喜
子氏による講演「地域で減災！あなたが力 みんなが力」



2013年スタートしたばかりの1月22日、札幌すみれホテルにおいて、平成24年度札幌市市民防災表彰式が行われました。平成24年度の受賞団体は各区計11団体となりました。表彰に当たり、上田札幌市長からは、「地域住民の安全は、地域の自主的な活動と連帯によって守られる。まさに市民自治の力が発揮される場面であるので、これまでの活動に感謝

するとともに、今後とも、防災活動を通じたまちづくりに努力して欲しい。」とのご挨拶をいただきました。

（受賞団体・各受賞団体のご紹介は別紙②をご覧ください）



平成25年3月7日・8日の両日に渡って札幌市危機管理対策室主催の「平成24年度上級防災リーダー研修会が開催されました。

研修の目的としては、日頃から防災訓練や研修などを主体的に企画立案する組織について、地域の自主防災活動の推進を目指すための人材育成を目的とするものでした。

また、自主防災活動を活性化するために、まちづくりの様々な活動に参画する人材の育成のために、研修会では、防災のみならず地域力向上のためのノウハウを学ぶ機会として札幌市危機管理対策室主導のもと、初めての研修会となりました。

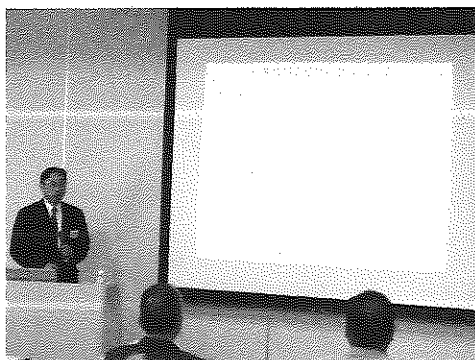
初日は榊石塚計画デザイン事務所代表の石塚雅明氏を講師に招き「地域活動に活かせるノウハウ～ワークショップの実技技法」をテーマに、講義と実演を開催しました。

石塚氏は、まちづくりプランナーとしての通常の業務の他、「(財)地域活性化センター全国地域リーダー養成塾」や「(財)電源地域振興センター国内研修」、及び札幌市、川崎市、世田谷区などの職員研修において、「住民参加のまちづくりの進め方」「まちづくりワークショップ等の企画運営方法」「住民主体のまちづくりの支援方法」などについて講義、演習を行っています。



前半の講義では一つめにまちづくりを題材とした「話し合いから始まるまちづくり」と題して災害時に必要不可欠な自助・共助についてや年々下がる町内会の入会率から見る地域力の弱体化について、地域力の衰弱＝コミュニティの希薄化や高齢化による災害時の危険性についてお話しいただき、ワークショップの開催に向けて白石区や南区での実践例を元にワークショップの定義進め方について分かりやすくご講演頂きました。

ワークショップの良い参加者になるための七つのポイントとして



- ・ワークショップの目的を理解し脱線しない
- ・笑顔で発言に傾き発言しやすい雰囲気を作る
- ・他者の発言に耳を傾け理解する
- ・発言時は結論を明確に論理的に
- ・他者の発言に関連づけて流れをつくる
- ・他者発言に否定だけでなく対案を示す
- ・ポイント毎に論点を確認する

最後にファシリテーターによる会議の環境作りが有意義な会議進行にとって重要であること、良きファシリテーターのための三つのポイントとして①常に「笑顔とうなづき」を忘れない②意見をどんどん書き留める③意見を整理し論点を示すこととお話し頂きました。

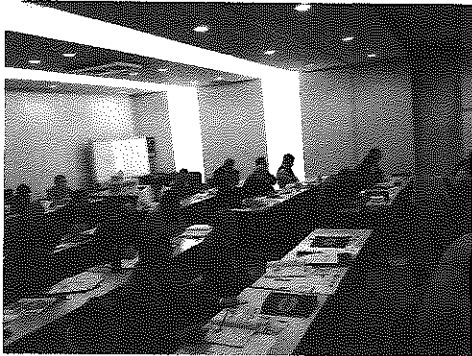
後半は講義をもとにして、参加者全員が小グループに分かれて、ワークショップ参加のポイントとファシリテーションについて大きな模造紙を使用して発言者への接し方や要点の分類分け、まとめ方についての実践を行いました。

二日目は北海道教育大学札幌校教授の佐々木貴子氏を講師に招き「DIG (Disaster ImaginationGame『簡易型災害図上訓練』) マスター養成講習」をテーマに、講義と実演を開催しました。

佐々木氏は「阪神・淡路大震災」を機に、小・中・高等学校家庭科に防災の視点を取り入れた指導内容をどう位置づけるかや、指導を容易にするための教材開発にあたり、新しい家庭科教育のあり方を追求する研究を行っています。



北海道教育大学教育学部函館校在任中に函館・渡島を中心としてDIGの普及に努められた功績は大きく、現在は、札幌を拠点に全道・全国的にDIGの普及を推進しています。



前半は地域住民の防災意識の高揚と地域防災力向上の訓練として有効なDIGを普及させるとともに、地域における防災活動の推進を担うDIGマスターを養成するという一方で、災害に対する住民の意識や対策について、東日本大震災以降の防災意識や備えについての変化について、災害に対する意識が低い人々の防災力向上のために手段の必要性について、DIGの歴史や進行方法につ

いて、全国の地震の予測状況についてのデータ等を交えて、家庭内の対策「自助」地域防災力の向上「共助」など防災に関する知識や取り組み等をご講演くださいました。

後半は参加者がDIGを実際に体験して理解を深め、一人一人が指導者として模擬訓練を行いました。

最後に終了式を行い、新しく32名の上級防災リーダーとDIGマスターが誕生して、各地域でのさらなる活動を期待され二日間に渡る研修会は盛況のもとに終了致しました。—

